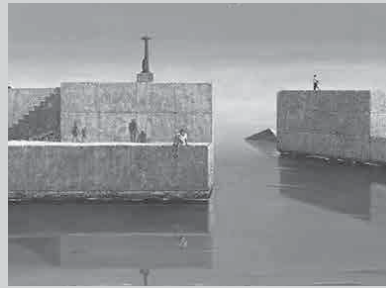


祈りの気持ちで…



1軒だけ残った理髪店「営業中」



人影が、ドキッとさせる「ぼくの海」



絵を描こう

夕張市生まれの伊藤さん。大学時代から道展に入選していたが、絵を描くのはそれほど好きではなかった。本を読むのが好きで絵本作家が夢だった。仕事に熱中し、真剣に絵に向かわない時期があった。30歳を過ぎ、このままでいいのか悩んだ末「やっぱり絵を描こう」と思った。そんな時、三井美唄炭鉱が閉山。がれきの山になった景色を見て、記録に残そうと思っただけで白黒の絵を描いた。

祈りの気持ち

甚大な被害をもたらした東日本

大震災。「震災があった年に初めて被災地に行きました。あまりの衝撃にスケッチもできず、カメラも向けられないほどでした」と語る。再び訪れたとき、絵を描き込んだ。海岸沿いに1軒だけ残った理髪店。1・2階は津波でズタズタだったが、3階には明かりがついていた。サインポールもくくるくる回っていて営業していた。絵のタイトルも「営業中」。印象的な油彩画だ。

北海道を描きたい

岬や灯台が好きな伊藤さん。大好きな北海道をみんなと違う視点

で描きたい。「空から岬を見たらどう見えるかな?」と思いました。実際に小型飛行機に乗り、写真を撮ったり、スケッチをしたりしているんです」と少年のようなキラキラした目で話してくれた。

北広島に住んで

昭和50年から北広島に住んでいる。父が剣道の指導で活躍する場だったので、伊藤さんは主に恵庭や江別、札幌で活動していた。北広島は素晴らしい自然や景色に恵まれていたので、これからは何か形に残したいと思っている。

大学生などの若い人たちに伝えたり、教わったりすることがあるのか聞いてみた。「気付いたことをアドバイスすることはあります。常に競争相手です。まだやりたいこともありますし、伸び代があると思います。若者には負けませんよ」と笑った。

これからも活躍が楽しみだ。

画家

伊藤 光悦 さん

いとう・こうえつ
東共栄在住。
夕張市生まれ。中学校の美術教諭として勤める傍ら、道展や二紀展などで何度も受賞した。現在、二紀会委員や道展会員、日本美術家連盟会員として若い芸術家へアドバイスするほか、個展も開いている。また、道都大学で非常勤講師を務めたり、絵画を目指す方に美術セミナーを行ったりしている。

